



静岡県農林技術研究所  
森林・林業研究センター  
上席研究員

加藤 徹



最新研究紹介

# 原木栽培シイタケの新たな害虫 需要の高まる秋から冬に大きな被害を及ぼす 「フタモントンボキノコバエ」

## 1 はじめに

食材として重要なシイタケは、菌床及び原木で栽培され、全国の出荷量は、菌床栽培の方が多くなっています。本県は、シイタケの原木栽培発祥の地でもあり、現在も、伊豆地域を中心に、原木栽培が盛んに行われています。原木栽培は、重いほだ木を扱うことや、シイタケの発生が気象に左右されやすいことなどにより、栽培は難しいものの、肉厚で風味豊かなシイタケが採れることから、高値で取引が行われています。

鍋物がよく食べられる寒い時期には、シイタケの需要が最も高くなります。しかし、近年、その頃にやっかいな害虫被害が発生するようになり、主に原木栽培を行う生産者の悩みの種になっています。

## 2 外(外観)から見えない被害

この害虫は、頭だけが黒くそれ以外は白色の、長さ一センチメートル程の細長いウジ虫状の幼虫です。幼虫は、シイタケの軸(足)から入り、軸や傘の内部に細いトンネルを掘りながら食

害します(写真1)。シイタケを食害する害虫は数多くいますが、そのほとんどは古くなったシイタケを食害します。これに対し、本書虫はちょうど食べ頃の、傘が開ききる前の段階でかなり食害し、軸や傘の内部は穴だらけになっています。

シイタケを観察したところ、まだ小さい幼菌状態のシイタケに、朝と夕方頃を中心に数多く集まること、かわかりました(写真2)。このことから、幼菌の時点で、軸に多数の卵が産みつけられると推察されました。

やっかいなことに、本書虫により激しい食害を受けても、外(外観)からは



写真1 近年増えているシイタケの害虫被害と害虫(右下)

## 3 秋から冬にかけての激しい被害

本書虫による被害は、10月頃から発生し、11、12月頃にピークとなり、春先まで続くことから、ちょうどシイタケの需要が高まる時期と重なります。浜松市浜北区にある森林・林業研究センターのシイタケほだ場で調査したところ、激しいときは8割以上のシ



写真2 シイタケ幼菌に集まる害虫

イタケに本書虫が侵入していました。基本的には原木栽培のシイタケが被害を受けますが、周囲が開放された施設での菌床栽培シイタケも被害を受けます。

このような被害は伊豆地域や県西部で確認していますが、それ以外の場所でも発生している可能性がります。また、伊豆の生産者の話では、被害は10年ほど前から見られるようになり、ここ数年で特に被害が激しくなってきたとのことでした。

## 4 フタモントンボキノコバエ

本書虫を飼育し羽化させたところ、フタモントンボキノコバエであることが判明しました(写真3)。また、写真2の、幼菌に集まる害虫もフタモントンボキノコバエであることがわかりました。加えて、近縁のキノコバエの混在も推察されました。

フタモントンボキノコバエは、ハネを開いたときの幅が約六ミリメートルの小さな害虫で、ハエというよりカ(蚊)に似ています。キノコバエには、菌床栽培の害虫で有名なナガマドキノコバエがいますが、フタモントンボキノコバエはそれよりも一回り小さ



写真3 フタモントンボキノコバエ成虫

く、ハネの先の方にそれぞれ二つの暗色の斑紋があるのが特徴です。

また、ハネが黄色みを帯び、その中央に褐色の紋のあるナカモンナミキノコバエという別の種類も見受けられました。これは少し古くなったシイタケの傘の内部を食害する種で、早めの収穫に心がければ、被害を避けられます。

## 5 被害対策

フタモントンボキノコバエによるシイタケ被害は、千葉県や大分県などで記録がありますが、その防除法



写真4 粘着シート等による捕獲試験

はまだ解明されていません。シイタケ栽培には農業は使えないため防除法に限られます。もちろん、キノコの中にいる幼虫を殺すことはできないため、防除は産卵防止や蛹・成虫の駆除・環境改善などとなります。当研究センターで調査したところ、成虫駆除のための粘着シート(写真4)や誘殺灯ではほとんど効果がなことがわかりました。また、シイタケの品種や原木の種類などによる被害の差も確認できませんでした。

このため、現在の対策としては、害虫の発生源となる採り残しをなくすことや、被害シイタケや規格外シイタ

ケの適切な廃棄、更に、廃ほだの移動及び適切な処分などが考えられます。今後、当研究センターでは、被害が出ない夏期における害虫の生態を探り、その期間における何らかの防除技術や、ほだ場の環境改善による被害回避技術などについて研究を行う予定です。

## 6 おわりに

フタモントンボキノコバエのシイタケ被害は、ここ数年激化し、面的にも広がりが見られます。今後、被害の続く可能性があり、防除法の確立が急がれます。

今後とも、シイタケ生産者の方々に、情報提供などについて御協力をよろしくお願いいたします。

連絡先 浜松市浜北区根堅2542-8  
静岡県農林技術研究所森林・林業  
研究センター 森林育成科  
FPRI@pref.shizuoka.lg.jp